

編集室のスケジュールにはもう束縛されない すべての編集室間でキャラクタージェネレーターを共有

ATEN IP-KVM エクステンダーで、編集室の有効活用を実現

導入先



株式会社オムニバス・ジャパン

本社所在地：〒107-0051 東京都港区赤坂 7-9-11

新橋ビデオセンター：〒105-0003 東京都港区西新橋 1-17-1

従業員数：名 414 名 (2016 年 7 月 1 日現在)

主な事業内容：

- ・コンピュータ、グラフィックスなどの企画制作
- ・VFX 映像処理などの技術コーディネート業務
- ・CM、TV 番組、映画、パッケージソフトなどのポストプロダクション業務
- ・シューティング業務
- ・衛星地球局 (CS) での制作、送出・運用管理業務、等

URL : <http://www.omnibusjp.com/>

株式会社オムニバス・ジャパンは、CM、テレビ番組、映画のポストプロダクション事業と、CG や VFX を制作するデジタルコンテンツ制作事業を中心に、企画・制作、撮影、編集、プリントまで、映像制作に関するトータルサービスを提供しています。高い技術力と創造力を備えたプロ集団が最先端機器を活用して作り上げた映像作品は、新たな映像クリエイティブの可能性を切り開くものとして、高い評価を得ています。

今回 ATEN 製品を採用していただいた同社の新橋ビデオセンターでは、テレビ番組や PV 等の編集・MA 作業を行うスタジオを備え、顧客の要望に応えた映像に仕上げ提供しています。その技術と実績は、各テレビ局から長年に渡り、厚い信頼を得ています。

背景

キャラクタージェネレーターを増設するにあたり、 編集室の運用効率の改善を検討

- 番組によって使用するキャラクタージェネレーターが異なるが、それぞれの機材は編集室に固定されていたため、部屋のスケジュール管理が負担となっていた
- 新たに導入するキャラクタージェネレーターの操作方法を少しでも早く習得する必要があった

要件・課題

<要件>

- 任意の編集室から、マシンルーム内に設置したキャラクタージェネレーターを操作できるようにしたい
- 機器の接続には扱いやすい LAN ケーブル 1 本だけにしたい
- コンソール手元で USB フラッシュメモリが使用できること

<課題>

- 各編集室は別々のフロアにあり、マシンルームから離れている
- 編集室とキャラクタージェネレーターのやりくりに伴う スケジュール管理を簡素化したい
- 空いている機材を有効活用したい (例: オペレーターの技術向上を図るための操作トレーニングを別室などから随時行いたい)

ATEN ソリューション

DVI-I シングルディスプレイ IP-KVM エクステンダー KE6900

- ・ PC の USB コンソールをイーサネット経由で延長できる IP-KVM エクステンダー
- ・ 延長距離による画質や信号遅延への影響が少ない
- ・ 高画質ビデオストリーミング対応
- ・ 解像度 - 最大 1,920 × 1,200 @ 60Hz, 24 ビット色深度
- ・ トランスミッターとユーザーステーションは 1 対 1、1 対多、多対 1、多対多で通信可能
- ・ バーチャルメディア対応
- ・ ホットプラグ対応



導入の決め手

- LAN ケーブル 1 本接続するだけで、コントロールルーム内のキャラクタージェネレーターを任意の編集室から操作可能
- 延長距離に関わらず、違和感のない操作が可能
- 高画質ビデオストリーミング対応
- バーチャルメディア対応で、リモートからのファイル転送も可能
- ユーザーフレンドリーな操作方法で、詳細なマニュアルや特別なトレーニングが無くても、誰にでも操作可能
- ホットプラグ対応で、機器の接続手順を覚える必要は無し
- 将来的な機器の増減にも柔軟に対応

使用場面



編集室



編集室内作業机に設置されたKE6900R



マスターコントロールルーム



マスターコントロールルーム内に設置されたKE6900T



マスターコントロールルーム内のKVMドロワー CL5708

感想・今後の展開

設置や操作方法も簡単で、空いた編集室を有効活用し、お客様の利便性やオペレーターの技術向上につながった

「センターの設立当初から ATEN 社の製品には、馴染みがありました。2016 年の秋頃に、キャラクタージェネ導入の計画が持ち上がったのを機に、編集室のスケジュールの簡素化と部屋の有効活用を同時に行うことにしました。その頃、ATEN 社から招待を受けた InterBEE 展にて、この IP-KVM スイッチ『KE6900』のデモを見て、早速、評価機貸出サービスを申し込みました。実機テストの結果、信号の遅延や画質の劣化も無く、操作も違和感がありませんでした。機材によっては電源 ON/OFF が必要となるバグが発生することも珍しくないのですが、この『KE6900』にはそうしたこともなく、設置は LAN ケーブル 1 本で済むため、導入を決めました。導入以来、一度もトラブルを起こすこともなく、常時安定稼働しているのが、非常に良い点です。現在は、レシーバーを都度、編集室に持って行って作業していますが、将来的には拡張や常設も考えています。今後 ATEN 社には、大容量データが必要な特番のテロップ制作用に、USB3.0 対応 IP-KVM スイッチの開発を期待しています。」


 株式会社オムニバス・ジャパン
 第2ポストプロダクションセンター
 制作技術部
 副部長 坂元 正明 様